

海外市場情報 -4-

Global Powder Technology Market-USA and More -4-

トリプルエーマシン(株) 代表取締役 石戸 克典

米国で、初めて展示会に出展する時、日本との違いに戸惑うことが多い。事前に日本の展示会との違いを知っておくと、現地でのトラブルを減らすことができ、出展コストを下げることも可能なので、この場を借りてご紹介したい。

出展社のできることでできないこと

アメリカの展示会場は、各ユニオンが取り仕切っており、ユニオンのルールに従って展示会準備を行わなければならない。シカゴ・マコーミックプレースのような大きな展示会場から、小規模の展示会場まで共通する一般的なルールを紹介する。展示会のマニュアルの中に必ず書いてあるので、出展社はこのローカルルールを守ることが重要である。日本からの出展社は、ルールを知らないのではないかと疑われて、ユニオンの監視員に目をつけられていると思って、特に注意をしたい。

①多くの会場で、ブースまでトラックを持ち込めないことが多く、ブースごとに決められた搬入日に、後ろのみの開くトラック（ウイング車はまずない）を会場内のドックにつけて、ユニオンのフォークリフト運転者が荷物を一つずつ下ろし、各ブースの近くまで持ってくる。（この際、ブース別に、荷物の重量を測定し、Drayage（横持ち料）という形で請求される。会場に直接持ち込まないで、事前に会場指定の倉庫に搬入すると、直接搬入時のトラックの長い待ち時間をなくすことはできるが、横持ち料は指定日に直接搬入するより高くなっている。

②会場にすべてお任せのブースパッケージを依頼しない限り、ブースの装飾は、カーペットから全て、出展者が手配しなければならない。ブース代に含まれるのは、通常、ブースを借りる費用（後ろのカーテンの上部に吊るされる社名表示を含む）と、バイヤーズガイドへのリスティング費用のみである。ここまでは、日本と同じであるが、自分で手配するときの方法が異なる。

③ EAC (Exhibitor Appointed Contractors) は、出展社が自社で採用できる装飾会社のことで、ユニオン以外の会社に仕事を依頼する場合、事前に届け出ておく必要がある。一般に、EACに仕事を依頼するほうが、会場ユニオンに仕事を頼むより、丁寧で安いことが多い。ただ、安いだけで質の悪い会社も存在するので、EACを選定する

際は、地元で展示会になれた会社に相談すると、経験に基づきよい会社を紹介してくれる。

④装飾会社に頼まなくても、1~2小間程度のブースであれば自分でできると考えがちだが、出展社に許されているのは、以下の作業のみである。

- 装飾会社への指示
- ツール（レンチ、ドライバーなど）を使わない、一人で行える30分以内の作業

前記以外は、全て必ず誰かに依頼しなければならない。当日ユニオンに注文すると、事前に予約するより、2~3割高く請求されるので、ユニオンに依頼するものは、事前に、指定日までに必ず予約して不要な支出を減らすことをお勧めする。

ユニオンのみが行える作業（主なもの）

- 木箱の解体、組み上げ（スキッド状態にして会場に持ち込めば、ユニオンに依頼する必要がないので、この費用を節約できる）
- 天井からハンギングサインをつりさげる
- フォークリフトでの機械設置・移動・撤去
- 電気、圧空、給水・排水施工
（ライトを取り付ける作業も電気工事に含むので、装飾会社はライトを設置することはできない）

EACが行える作業（ユニオンも可能）

- 家具、AV機器、花・観葉植物レンタル
- トラス・パネルの組み立て・設置・撤去
- ポスター設置・撤去
- カーペット設置・撤去

⑤スキッドなどの展示会中に不要なものは、“Empty”ラベルを貼ることで、ユニオンで展示会終了まで無料で預かってくれ、展示会終了後、各ブースに返却してくれる。しかし、いつ返してくれるかは分からず、大きな会場では、3~4時間返ってこなかったこともある。展示会終了日に片付けを行う必要がある場合は、ブース内に物置を設け、自ブースで保管することをお勧めする。

⑥ブースの片付けが終わったら、Bill of Ladingに記入して、ユニオンに提出すれば、すべての作業が終わる。仕向け先や引き取りトラック会社が異なる場合は、別々に記入して提出しなければならない。書類が不備だと、指定した引き取りトラック会社が会場に荷物を取りに行っても引き渡してもらえず、後でユニオンに直接送りつけられ、高額な運送費を請求されることもあるので注意をしたい。